

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：九州地方整備局都市・住宅整備課

担当課長名：栗田 泰正

事業名 かわとせん 川跡線	事業区分 街路	事業主体 鹿児島県																										
起終点 自：鹿児島県国分市広瀬3丁目 至：鹿児島県国分市広瀬2丁目		延長 1.3km																										
事業概要 川跡線は、国道10号から国分市中心市街地を經由し霧島地区に至る延長約4.0Kmの主要な幹線道路であるほか、大隅地方から鹿児島空港へのアクセス道路にも使用される重要な路線である。当該事業区間は、本路線の起点部を整備する延長1.3Kmの2車線道路である。																												
H6年度事業化	S31年度都市計画決定 (S63年度変更)	H6年度用地着手 H9年度工事着手																										
全体事業費	約4.4億円	事業進捗率 55% 供用済延長 0.7km																										
計画交通量	8,911台/日																											
費用便益分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B/C (事業全体)</td> <td style="width: 15%;">1.7</td> <td style="width: 15%;">総費用 (事業)/ (事業全体)</td> <td style="width: 15%;">21/48億円</td> <td style="width: 15%;">総便益 (事業)/ (事業全体)</td> <td style="width: 15%;">79/79億円</td> <td rowspan="3" style="width: 15%;">基準年 平成15年</td> </tr> <tr> <td>(残事業)</td> <td>3.8</td> <td>事業費</td> <td>19/46億円</td> <td>走行時間短縮便益</td> <td>76/76億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>維持管理費</td> <td>2/2億円</td> <td>走行費用減少便益</td> <td>3/3億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>交通事故減少便益</td> <td>0/0億円</td> <td></td> </tr> </table>	B/C (事業全体)	1.7	総費用 (事業)/ (事業全体)	21/48億円	総便益 (事業)/ (事業全体)	79/79億円	基準年 平成15年	(残事業)	3.8	事業費	19/46億円	走行時間短縮便益	76/76億円			維持管理費	2/2億円	走行費用減少便益	3/3億円					交通事故減少便益	0/0億円		
B/C (事業全体)	1.7	総費用 (事業)/ (事業全体)	21/48億円	総便益 (事業)/ (事業全体)	79/79億円	基準年 平成15年																						
(残事業)	3.8	事業費	19/46億円	走行時間短縮便益	76/76億円																							
		維持管理費	2/2億円	走行費用減少便益	3/3億円																							
				交通事故減少便益	0/0億円																							
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（第2種空港「鹿児島空港」へのアクセス向上が見込まれる） ・国土・地域（現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する）																												
関係する地方公共団体等の意見 川跡線は、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、国分市をはじめとする関係1市7町の首長で構成される加治木地区土木協会より早期整備の要望(平成14年7月)を受けている。																												
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 周辺地域における、住宅建設の促進や、平成15年4月の新規中学校の開校等のため、広瀬地区における交通渋滞は、ますます深刻化している。																												
事業の進捗状況、残事業の内容等 当初計画のとおり、平成14年度にはI期工事690mを完了し供用を開始している。																												
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 現在残る600mについて、計画のとおり用地買収を進めており、平成18年度工事着手・平成21年度供用開始の予定である。																												
施設の構造や工法の変更等		変更なし																										
対応方針	事業継続																											
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。																											
事業概要図																												

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。